

主要事業評価シート (第2次実施計画／R1・2・3年度)

①基本事項	計画コード	事業名			部名	生活文化部	
	17028	ごみ溶融処理施設大規模整備事業			課名	環境課 廃棄物対策G	
	施策の大綱	01:快適さを支える生活基盤の向上			財務科目目	会計	01:一般会計
	基本施策	07:低炭素・循環型社会の構築				款	04:衛生費
	施策の方向	03:廃棄物処理施設の適正管理				項	02:清掃費
	戦略プロジェクト	-				目	02:塵芥処理費
事業予定期間		H 27	～	R 7	年度	主な根拠法令要綱等 廃棄物の処理及び清掃に関する法律	

② 目的・概要	対象	市民、事業者
	目的	平成12年度に稼働した亀山市総合環境センターごみ溶融処理施設について、「亀山市総合環境センター溶融施設長寿命化計画書(平成22年度策定)」に基づき、耐用年数を迎える主要な設備・機器の整備を計画的に行い、令和11年度まで稼働できるよう施設の延命化を図る。
	概要	平成24～26年度に実施した基幹的設備改良工事に続き、今後耐用年数を迎える主要な設備・機器について平成27～令和7年度に更新・改良工事を実施する。

令和元年度			令和2年度		令和3年度	
年度計画	○溶融炉設備 1・2号副資材供給シュート 等 ○溶融物処理設備 №1スラグコンベヤ 等		○溶融炉設備 1・2号副資材上部・下部 等 ○溶融物処理設備 1・2号水砕ピット ○灰処理設備 混練造粒機 等 ○電気設備 無停電電源装置		○副資材供給設備 コークス受入れホッパ ○溶融炉設備 1・2号下部シール弁 ○溶融物処理設備 スラグ・メタル切り出しゲート ○電気設備 非常用プラント動力 等	
	○溶融設備 1・2号副資材供給シュート 等 ○溶融物処理設備 №1スラグコンベヤ 等					
年度実績						
③ 事業の計画・実績	計画額	事業費	110,000千円	113,000千円	126,000千円	
		国庫支出金				
		県支出金				
		地方債	82,500千円	84,700千円	94,500千円	
		その他				
	予算額	一般財源	27,500千円	28,300千円	31,500千円	
		事業費	106,000千円			
		国庫支出金				
		県支出金				
		地方債	79,200千円			
	決算額	その他				
		一般財源	26,800千円	0千円	0千円	
		事業費 ①	105,600千円			
		国庫支出金				
		県支出金				
	人件費	地方債	79,200千円			
		その他				
		一般財源	26,400千円	0千円	0千円	
		総人件費 ②	549千円	0千円	0千円	
		一般職員	549千円	0千円	0千円	
所要人員	0.07					
	会計年度任用職員等	0千円	0千円	0千円		
	総コスト(①+②)	106,149千円	0千円	0千円		
受益者負担率		0.0%	0.0%	0.0%		

					令和元年度	令和2年度	令和3年度	
④ 指標	①	名称	ごみ溶融処理施設 大規模整備工事 進捗率	活動	計画値	34	43	53
			実施済み事業費/総事業費		実績値	34		
					単位	%	%	%
	②	名称			計画値			
					実績値			
					単位			
	③	名称			計画値			
					実績値			
					単位			

⑤ 事業の改善	前回評価	【前回評価の対応方針の概要を記入】 老朽化した設備を更新するだけでなく改良を加えることでより一層効率的なごみ処理ができないか考える必要があり、そのためには施工業者と技術的な議論ができるよう溶融施設に関する知見を深める必要がある。
	改善行動	【前回評価の対応方針を踏まえ、どのような措置を講じたか】 工事監督員が廃棄物処理施設に特化した設計積算研修に参加し知見を深めたほか、施工業者との打合せ時に必要に応じて有資格非常勤職員（ボイラータービン主任技術者、電気主任技術者）が同席し、助言をいただくことで、技術的な議論ができるようになった。これにより、次年度は設備更新のみならず設備改良も実施する施工計画を立てた。

⑥ 事業の評価	評価		(判定)
	活動	【計画どおりに実施できたか】 年度当初の計画のとおり完成した。日々の溶融炉の運転管理業務や突発的な修繕と連絡調整を図ることで、日常のごみ処理に支障をきたすことなく完成することができた。	A 計画どおり実施できた
		【成果は順調に上がったか】 当事業により、老朽化して対応年数を迎えた主要な設備・機器を整備することができ、施設の適正管理と安全安心で効率的なごみ処理が可能となった。	
	成果		A 十分な成果を得た

⑦今後の対応方針	課題	【課題は何か】 長寿命化計画策定後9年が経過し、設備・機器の中には製造中止や部品供給停止になったものが生じてきた。また、長寿命化計画に位置付けていない設備・機器（建物の空調や放送設備、屋根雨漏り等）にも老朽化が著しいものが見受けられる。	今後の方向性	☐ 拡大	
	対応	【課題に対し、どのように対応するか】 設備・機器の中で、製造中止や部品供給停止になったもの、長寿命化計画に位置付けていないが老朽化が著しいものを精査し、更新時期や内容を検討する。		☒ 現状維持	
	効果	【対応することで、どのような効果が期待できるか】 整備計画を見直すことで、設備・機器の実情に合わせた効率的な整備が可能となり、施設の適正管理と安全安心で効率的なごみ処理が可能となる。		☐ 縮小 ☐ 廃止 ☐ その他	
対応時期			通年	【その他の場合、その内容を記載】	

【1次評価者】	生活文化部 環境課 廃棄物対策グループリーダー 山際 文則
【最終評価者】	生活文化部 環境課長 村田博

(参考:前期基本計画期間 (H29-R3) における評価履歴)

		H29	H30	R1	R2	R3
判定	活動	A	A	A		
	成果	A	A	A		

■令和元年度予算額(事業費)の内訳

予算額(事業費)		106,000 千円
内訳	平成30年度からの繰越額	千円
	令和元年度の最終予算額	106,000 千円
	令和2年度への繰越額	千円